ー過去を知り現在を見るー

史繋門（しけいもん）

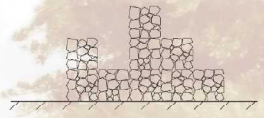
プロローグ

海軍壕公園のある今回の計画地は高台にあり、私たちの知らないはるか昔よりこの土地を見守って来ました。私がここを初めて訪れた時、非常に見晴らしの良い、発展した沖縄の姿を見ることができました。しかし、この展望する場所の地下には大変な記憶が残っています。発展を続けている沖縄を誇らしく思う気持ちと、戦争による悲しい気持ち、この２つの感情が同時に私を襲いました。私はこの場所に必要な物は、２つの感情を整理し、理解することができる場所なのではないかと思ったのです。
そのための門、過去を知り、現在を見る。歴史を繋ぐ門、「史繋門」を提案いたします。

コンセプト

1.「偲ぶこと」（自然との調和を考えること、それは戦争だけでなく、さらにその昔から続くこの土地を考えること。）
2.「今の沖縄を展望すること」

1. 石垣



石垣は大地を表現しています。
高さの違いは、土地の歴史、思いなどの様々な出来事を表現している。

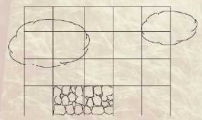
2. 植栽

自然は様々な背景に関係なく土地を覆い元の姿に戻っていく。

3. 入口の形状

石積みの入り口は、沖縄で古くから見られました。城のアーチ状の門や亀甲墓など。訪れた人が誘われて入る様な形状だと考え今回は採用しています。

4. 空との一体感



この敷地で自然との調和を考えた時、空と近いことに気付きました。建築上部には石を入れないことで、空と一体感を得る様な操作をしています。

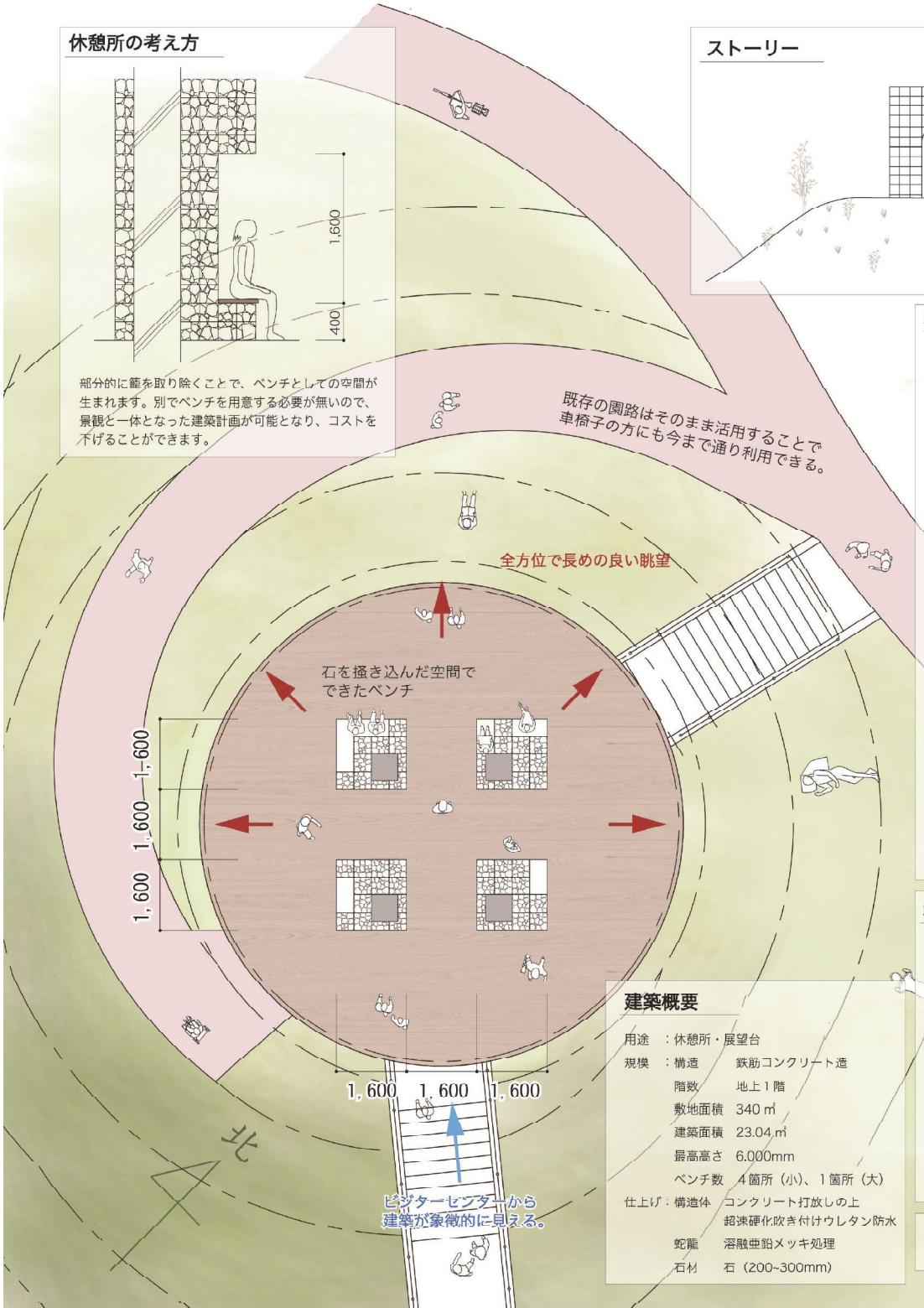
休憩所の考え方

部分的に籠を取り除くことで、ベンチとしての空間が生まれます。別でベンチを用意する必要が無いので、景観と一体となった建築計画が可能となり、コストを下げることができます。

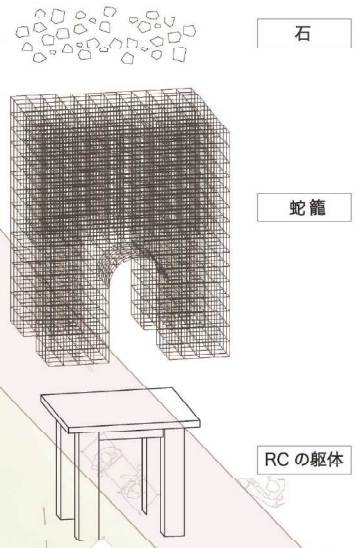
ストーリー

ここに訪れた人は、地下で起きた出来事を体験し、過去の沖縄では悲惨な出来事が起きていたことを学ぶと思います。ビジターセンターを出た後、門の様な休憩所が見えます。シンボリックな形状をしており、アーチの門に誘われる様にそこに向かいます。過去から現在にいたるまで、沖縄のどこかで見たことのある様な見た目です。階段を上り、門をくぐったその先には、豊に発展を遂げた現在の沖縄の姿を見ることができます。この土地では悲しい過去がありました。しかし戦後 77 年、沖縄に住む人たちは下を向くことなく、頑張って成長を続けて来ました。

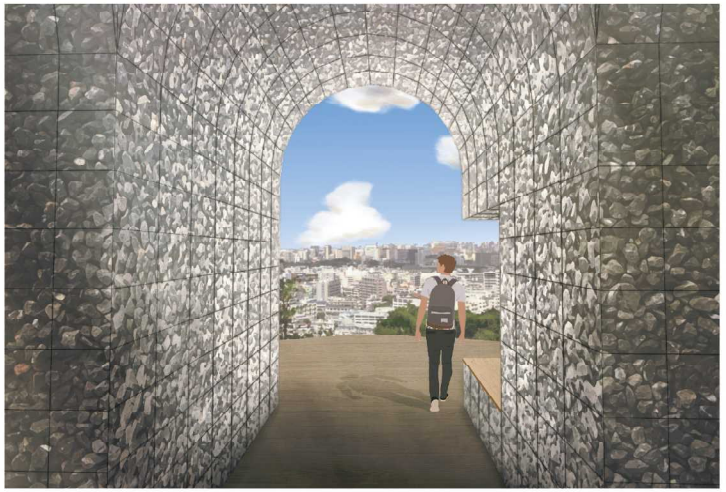
その様子が分かる場所、理解できる場所、それがこれからの海軍壕公園展望台としての役割となるでしょう。



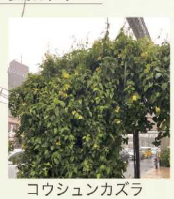
構成ダイヤグラム



RC の構造体の周りに、外構などに使用される蛇籠で覆い尽くし、その中に 200~300mm の石を投入予定。構造体は安定性確保の為、RC とする。石は最上部まで入れず、開いた空間が空との一体感を演出する。



植栽計画



コウシュンカズラ

ブーゲンビリア

今回の計画では蛇籠が周囲を覆っている為、植栽は登坂植物が適していると考えた。コウシュンカズラやブーゲンビリアは沖縄でも広く分布し、馴染みが深い植物であり、病害虫にも強いとされています。また、色も鮮やかであり、沖縄らしい植栽と言えます。

建築概要

用途	：休憩所・展望台	
規模	：構造	鉄筋コンクリート造
	階数	地上１階
	敷地面積	340 ㎡
	建築面積	23.04 ㎡
	最高高さ	6.000mm
	ベンチ数	４箇所（小）、１箇所（大）
仕上げ	：構造体	コンクリート打放しの上 超速硬化吹き付けウレタン防水
	蛇籠	溶融亜鉛メッキ処理
	石材	石（200~300mm）

コスト管理

1. 建築の構成は、RC は最低限の構造体とし、石も特別な物の使用を想定していません。
2. 蛇籠はグリッドで構成されている為、１回り小さくすることやグリッド寸法の変更などでコストを管理しやすくなっています。